

ポケットが形成されると、ポケットの奥に不良肉芽や感染病巣があり、褥創治療の妨げになります。このポケットをサージトロンで切開します。ポケット内には膿（うみ）が溜まっていることが多いので、これを生理食塩水などで洗浄して洗います。

症例

図④の点線部にポケットがあり、まず表層を切開モードで、優しく切開しています。その下の層は、混合モードで行い、さらに深い組織は止血モードで組織を切開します。最後に筋肉が死んだ壊死物質が出てきました。壊死した筋肉は非常に硬く、鉗で切り取りました。壁からの出血はモスキートで止めます。細かい出血はサージトロンのバイポーラで止血をします。皮弁に糸を掛けて、観音開きにしました。このあと切開部分を、十分洗浄して手術を終えました。図⑥は手術後5日目ですが、きれいな肉芽がみられます。その後、創部の洗浄と外用処置を毎日繰り返し、約4ヶ月で完治しました。(図⑦参照)



図④



図⑤



図⑥



図⑦

まとめ

褥瘡の治療は根気のいるものです。一生懸命外用治療を行っていても、徐々に壊死組織が生じたり（最初の段階で黒色の壊死物質が生じることがある）、突然ポケットが発見されることがあります。このような治療過程において、サージトロンは非常に有用な武器になります。

まず壊死組織の除去をサージトロンで行うと出血量が少なくて患者さんの負担を減らすことになります。また、ポケットはその奥に感染物質が堆積したりすることがしばしばありますので、これを切開することも重要です。

その際にもサージトロンは活躍します。このようにして褥瘡が良好な肉芽で覆われるとあとは、外用治療や再建手術で褥瘡の治療が望める様になります。なお、このような前処置を Wound bed preparationと呼びます。

【筆者略歴】

1981年 大阪市立大学医学部卒業
同年、大阪市立大学医学部臨床研修医となる。研究医、大阪市立大学助手、講師を経て
2005年 恩賜財団大阪府済生会富田林病院、皮膚科部長に就任する。

【所属学会ならびに役職】

日本皮膚科学会（代議員）
日本皮膚外科学会
（副会長・理事・雑誌編集委員）
日本皮膚悪性腫瘍学会、日本皮膚病理組織学会
日本皮膚科学会専門医 日本皮膚科学会
皮膚悪性腫瘍指導専門医